



棒線事業部 室蘭製鉄所
製鋼工場 製鋼技術グループ マネジャー

青野 通匡 (2004年入社、マテリアル応用工学専攻)

製鋼技術の視点から 新日鉄の国際競争力を高める

背景は室蘭製鉄所の転炉（修繕中）

新幹線の設計をした——高校時代そんな憧れを抱き、材料工学に興味を持った。大学で金属の腐食・防食メカニズムについて学ぶと、次第に鉄の世界に魅せられていった。そして大学院では、担当教授が当時参画していた鉄鋼協会傘下の研究会「革新的・混合分離リアクター創出研究会」で製鋼プロセスの流体シミュレーションに関する研究に取り組んだ。

「就職活動で鉄鋼大手各社を訪問しました。広畑製鉄所の冷鉄源溶解法を見て、高炉法と異なる新たな製鉄プロセスを世界で初めて実用化した、新日鉄の技術開発の底力を感じました」

入社後は自動車部品向け特殊鋼の主力製造基地である室蘭製鉄所の製鋼工場に配属された。特殊鋼は自動車部品の中でも特に強度や耐久性などが最も高い次元で求められるエンジン、駆動系、足回りのいわゆる重要保安部品に多く使われている。部品に求められるさまざまな要求特性に合わせた製品を開発し供給している室蘭で、強度と相反する良好な切削性を両立し、加工部品の長寿命化と製造時の環境負荷低減に貢献する「鉛を使わない低炭快削鋼」の実機化にも携わった。「鉛を使わない低炭快削鋼」の開発は、『第3回ものづくり日本大賞』優秀賞を受賞した。

「誰もつくったことのない鋼材をつくりたい。それが技術者としての夢です。しかし、いくら机上で上手な絵が描けても実現できなければ意味がありません。お客様に満足していただける高品質な製品を安定供給するためには、ラボでの研究開発の成果を洗練させる現場のデータが重要です。原理・原則と現場・現物の歯車がかみ合って初めて大きな力が生まれます」

昨年、全社精錬ワーキンググループのサブグループのリーダーを務め、現在は新日鉄のグローバル展開を支える海外製造拠点の技術支援にも携わっている。製鋼技術の視点から新日鉄の国際競争力を高める研究開発を続け、世界に通用する技術者を目指し歩んでいる。



自動車の重要保安部品に使われている室蘭の特殊鋼